

奥多摩の森



奥多摩

《第79号》

令和7(2025)年

10月15日 発行

一般社団法人 奥多摩観光協会



2022/10/21

雲取山の黄葉

雲取山(2017m)は東京都最高峰で日本百名山に選ばれた、奥多摩を代表する山の一つです。

山頂付近から東の奥多摩駅方面には防火帯が整備され、カラマツが植林されています。東京都の水道水源林として管理されている奥多摩エリアの山々には主にスギ、ヒノキ、カラマツなどが植林されています。カラマツは比較的寒さに強く、標高の高い雲取山にはカラマツが多く植えられています。10月中旬には黄色く染まったカラマツの黄葉を楽しむことができます。

行って来たあよ

No. 12 8月27日(水)開催
三頭山(1531m) 緑滴る三頭大滝から

夏の三頭山

私自身、これまで、三頭大滝やその下流の多くの滝、「都民の森」から東側にある砥(とい)山へのジオツアーに参加していたが、肝心の三頭山には行っていなかったのが、今回のイベントに参加させていただいた。

三頭大滝までの道は木のチップが敷いてあり、歩きやすく、天然の森の中の歩行である。気温は26度、心地よい風と、海拔1000mの高さの影響は十分感じられた。トチ、香りが良いカツラなど、いつもながら、気持ちがホットする。ただ、遠くの山にはナラ枯れがところどころ見られた。令和に入ってから全国的に増加しているとのこと。

前号で紹介された「緑滴る三頭大滝」の岩壁を流れ落ちる水量は、このところの暑さのためか少なかった。その岩壁は、約750万年前、このあたりにマグマが上がってきて、堆積岩が熱変成を受けてできたものだそうで、悠久の歴史も感じ取れる。

大滝からムシカリ峠を經由して三頭山の西峰まで、休憩をはさんで、ガイドさんの大きな励ましの声を聴きながら、やはり、汗をかきながらの夏の山登りだった。しかし、山道の脇には、夏ではあるがいろいろな花が見られ、御岳山で有名なレンゲショウマにも出会った。



西峰(1524.5m)は山梨県との県境で、わたくしは昼食を山梨県側で食べたことになった。木陰の中、涼しい風が吹いていて山登りの疲れが取れた。眺望の良い北側からは雲取山、鷹の巣山などが見られ、深い山並みに感動した。

中央峰(1531m)、東峰の展望台など少しの登りだけで、あとは下りで、無事踏破。おいしい空気を吸い、自然を観察しながらの山登りは楽しいものである。ありがとうございました。

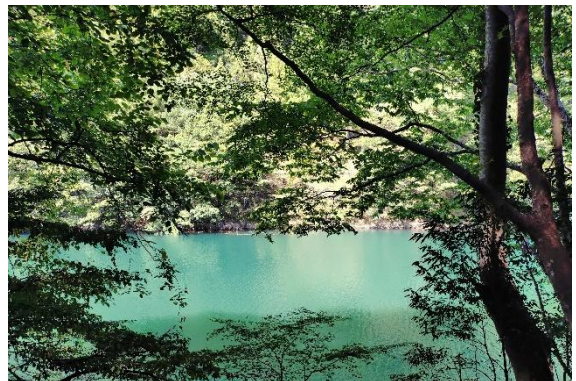
友の会会員 梅本 益雄

No. 13 8月29日(金)開催
鳩ノ巣溪谷・白丸湖畔遊歩道

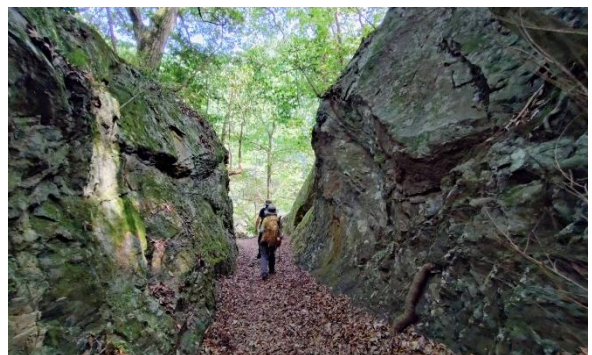
古里駅から白丸駅まで、溪谷や湖を見ながら遊歩道を歩くイベントに参加しました。

天気は快晴。猛暑続きの夏でしたが、駅に降り立つと、スーッと涼しい風が頬をかすめます。ああ、やっぱり奥多摩はいいなあ。

寸庭橋を渡ると急な登りの松の木尾根。ゆっくりでも大汗をかきましたが気分はスッキリ晴れやかです。奇岩・巨岩のある鳩ノ巣溪谷は、とてもダイナミックです。白く飛び散る水しぶきを見て何度、川に入りたいと思ったことでしょう。



白丸湖畔に入ると景色はとても穏やかです。湖の色が綺麗なエメラルドグリーン。この景色をそのまま額に入れて持ち帰りたいと思いました。ガイドさんの解りやすく楽しい説明を聞きながらカヌーやサップ体験をしている人達を見ていると、ドボーンと落ちる音や笑い声がとても心地よく、不思議な気分になりました。これこそが奥多摩マジックなんですね。



江戸中期に切り開かれたという数馬の切通しは、なんともいえないミステリーな雰囲気漂っていました。

今回巡った奥多摩は、一日で川や溪谷・湖やダムを再発見できる、とても魅力のあるコースでした。紅葉の頃また訪れてみようと思います。

友の会会員 おおふく 大福 知子

季節のおすすめイベント

No. 19 11月17日(月)開催 浅間嶺(903m) 浅間尾根を歩く

浅間嶺は、東京都西多摩郡檜原村にある標高903mの山で、奥多摩地域に位置します。東京とは思えないような自然豊かな風景と、気軽に楽しめる登山コースが魅力の山です。

山頂からは檜原村の集落や奥多摩の山々、そして天気良ければ富士山を望むことができます。特に春や秋は空気が澄んでいて展望が素晴らしいです。春の新緑、夏の涼しさ、秋の紅葉、冬の雪景色と季節ごとに違った表情を見せてくれます。特に秋の紅葉は美しく、多くのハイカーが訪れます。

浅間嶺の名前の由来は「浅間神社」にあります。浅間神社は、日本各地にある富士山信仰(浅間信仰)を背景に成立したもので、この地域にも富士山の神「木花咲耶姫命(このはなさくやひめのみこと)」を祀る信仰が古くから存在していました。浅間嶺の山中にも、かつて浅間神社の祠があり、地域の人は五穀豊穡・安全祈願・火山鎮静を願って山を信仰していました。特に農業や林業を営む人々にとっては「命を支える神聖な場所」だったのです。

浅間嶺は江戸時代から昭和初期にかけて檜原村の集落を結ぶ生活道や山仕事の道としても利用されてきました。炭焼きや木材の搬出のために村人が歩いた道が現在の登山道の一部となっています。

浅間嶺はただの登山スポットでなく地域の人々の信仰・生活・文化の記憶を刻んだ歴史ある山なのです。下山口近くにある払沢の滝なども山の魅力を高めています。

ガイド 箭内 忠義



No. 20 11月28日(金)開催 丹三郎から秋を楽しみながら 梅沢、川井駅へ

丹三郎集落は、武蔵七党の一つ丹党一族によって開村されました。集落は、いにしへのまま現存しタイムスリップしたかのようです。

古里駅から吉野街道、万世橋を渡り少し歩くと、右手に立派な長屋門造りの家が現れ時代を感じられます。

その先、火の見やぐらの脇を行くと町内で唯一の真言宗寺院・長福寺があります。裏手には御岳山参道で、脇には町自慢のトイレがあります。

この後、目の前の旧道を右に進み柵があり、右側に入ると丹生(タンショウ)神社。地名由来の神社で村社。その傍らには杉の巨樹(樹高40m 幹囲4.5m)に歴史を感じます。

神社をあとに右手に進み、Y字路を左に行くと滝ノ沢水車と石仏があります。大日如来塔はじめ4体の石仏があります。

次にY字路右に行き老人ホームの坂を下り吉野街道を進みます。

奥多摩大橋前信号手前の細道に入り、少し行くと梅沢の宝珠院(曹洞宗海禅寺派)と巨樹イヌグス(樹高18m 幹囲6m)があります。本堂入口ではお地蔵様が、出迎えてくれます。本堂前を通り道標→印を右折すると墓地があり、右手にイヌグスの巨樹が出現します。近づくとも根っこが巨大で見上げると先端が見えにくい高さ。明治時代に植林されたとの立て看板。

最後は熊野神社。珍しい権現鳥居の朱色が神社を引き立てていました。



見どころラスト、多摩川に架かる奥多摩大橋は見事で橋下はキャンプ場、川井駅到着。

開催時は紅葉のとき…こよう。(来よう)

ガイド 武田 和代

「名人・達人観光ガイドの会」ガイド紹介 ～ 七期生 ～

質問事項

- ①氏名 ②現役時代の仕事または今現在の仕事
- ③出身地 ④現住所 ⑤趣味、特技 ⑥ガイドになったきっかけは？ ⑦今までガイドをして嬉しかったこと良かったと思ったこと
- ⑧ガイドをする時いつも心がけていること

①小林秀夫（こばやし ひでお）

- ②現役時代はファイナシャルプランナー・相続診断士をしていました。現在は年金暮らしです。
- ③東京都世田谷区
- ④東京都武蔵野市
- ⑤読書（ハードボイルド）、音楽鑑賞（英国ロック）
- ⑥奥多摩の魅力を知ってもらいたくて
- ⑦ガイドはこれからなので「良かった！」と言ってもらえるように
- ⑧登山の楽しさと共に、危険も知ってもらうこと

①沢口裕子（さわぐち ゆうこ）

- ②会社員 ③奥多摩町 ④羽村市
- ⑤園芸 ⑥知人の紹介
- ⑧安全第一に参加者の方々が楽しい一日を過ごせるよう心がけています。

①田代健太郎（たしろ けんたろう）

- ②前職：保育士、山小屋スタッフ
現職：山詠案内舎 ^{やまうた} 代表 登山ガイド
- ③宮城県宮崎市
- ④山梨県北都留郡丹波山村
- ⑤趣味：カレーとラーメンの食べ歩き
特技：散財
- ⑥登山が好きだったこと

⑦たくさんのお客様の笑顔とありがとうをいただいたこと

⑧お客様への山域説明および注意事項の説明と約束ごとの確認、気象予測および天候確認、お客様の体調確認と装備確認、直近の山域情報の確認、救命救助用品の携帯と救助技術、自己管理、エスケーブルートの確認、下山後の温泉やお土産物・飲食店の調査およびお客様への情報共有、交通情報、その他

第 40 回奥多摩ふれあいまつり

毎年恒例の「奥多摩ふれあいまつり」が 10 月 25 日（土）、26 日（日）に奥多摩総合運動公園にて開催されます。例年様々なブースが出展し、大勢の来場者で賑わいます。今年は町制施行 70 周年の記念の年で例年よりも盛大に行われる予定です。

また 10 月 26 日（日）には奥多摩中学校にて「#〇〇祭り」。11 月 1 日（土）、2 日（日）には VERTERE 敷地内で「OKUTAMA BEER FEST 2025」が開催されます。

詳しくは各団体のホームページをご覧ください。

山岳事故にはご注意を

秋は日が短く、落葉により登山道が分りにくくなることがあります。

登山に行く際には早出早着を心がけましょう。また、万が一に備えて日帰り登山でもヘッドライトや防寒着は必須です。

奥多摩では年間 40～50 件の山岳遭難が発生しています。安全登山のために入念な計画・行動をしてください。

青梅警察署では山岳事故の発生状況を取りまとめ公開していますので、ぜひご確認ください。

https://www.keishicho.metro.tokyo.lg.jp/about_mpd/shokai/ichiran/kankatsu/ome/about_ps/sangaku.html

ツキノワグマ

奥多摩町内で今年はツキノワグマによる人身被害が発生してしまいました。

例年目撃はあるものの、ハイカーや釣り人など一般の来町者に被害が出たのは約 10 年前でした。

山や川などに入る際にはラジオや鈴など音の出るものを用意し、ツキノワグマと遭わない工夫をしましょう。

次号発行予定：2026 年 1 月 15 日

発行 一般社団法人 奥多摩観光協会
住所 〒198-0212 奥多摩町氷川 210
電話 0428-83-2152 FAX 0428-83-2789
編集 名人・達人観光ガイドの会

来させえ奥多摩のバックナンバー
をオンラインでご覧いただけます。

